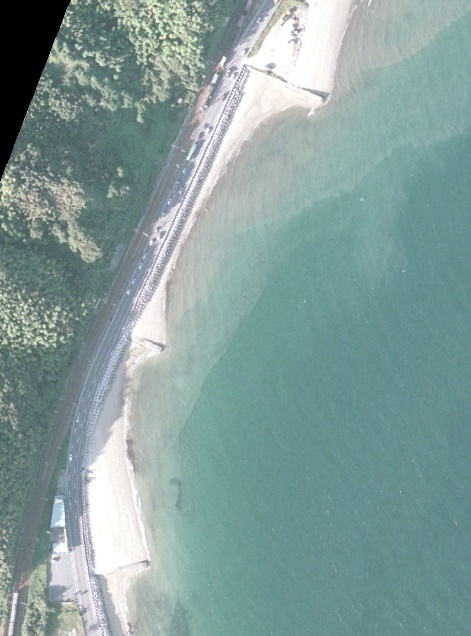
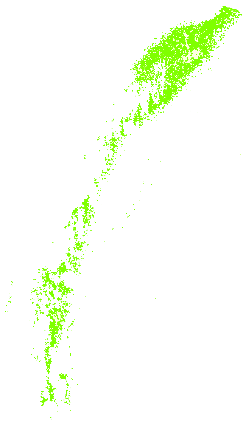
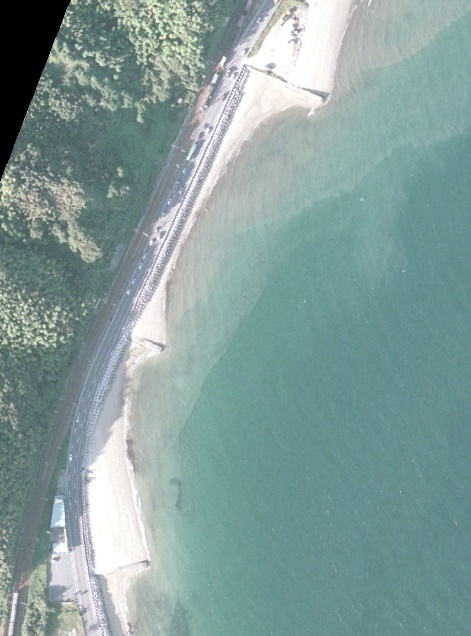
海草藻場面積については、2011年10月の航空写真から画像解析を行い、海草藻場面積を把握し、2280 m2であった。海草藻場の着生被度については、2012年8月に潜水観察によってベルトトランセクト法によって把握し、アマモの平均被度階級は1、コアマモの平均着生被度階級は2であった。これからアマモ及びコアマモの湿重量及び含水率86％10)から海草吸収係数を算出すると6.13 t-CO2/ha/年となった。海草藻場面積×海草吸収係数で海草藻場の吸収量を算出した値である1.40 t-CO2をベースラインとした。

空撮(左図)及び画像解析結果(右図)(2011年10月)

潜水による目視観察結果(左：アマモ、右：コアマモ)(2012年8月)

10)三浦浩・伊藤靖・吉田司（2013）漁港の生態系構造と生物現存量の推定, 土木学会論文集B2（海岸工学）, Vol.69, No.2, I\_1211-I\_1215 ; アマモ乾燥量/湿重量＝0.14